

執筆者紹介

立命館大学教授

箕浦格良

立命館大学専任講師

住ノ江佐一郎

立命館大学教授

大山敷太郎

立命館大学教授

梯明秀

立命館大学教授

淡川康一

立命館大学経済学会委員

井上巖次郎
淡川康一
高橋良三
箕浦格良
高尾忠良
浜崎正規
規

かとがき

青葉をわたる風もかぐわしい季節である。学生諸君の勉学気分も今年はぐんと引きしまつて、日日の講議にも張りのある日がづいている。

☆毎々機関誌を御恵投下さいまして洵にあります。交換誌の御送附先は必ず左記に願い上げます。

念のため。

京都市上京区広小路通寺町東入ル

立命館大学経済学部研究室宛

振替口座番号 京都二三〇六八番

京都市西陣局区内広小路寺町東入

立命館大学経済学会宛

昭和三十年六月二十日印刷
昭和三十年六月二十五日発行

定価 百二拾円

立命館経済学 第四卷・第二号

編集者 立命館大学経済学会

(高橋良三)

印刷者 垣本剛一

立命館大学内

発行所 立命館大学人文科学研究所

京都市左京区京都大学北門前

学年本年度の総会は一寸趣向をかえて、京阪丸一隻をチャーターして琵琶湖周辺を試み、船中で総会の諸行事を挙行した。六月五日、折からの好天に恵まれて、意義深くも楽しい一日を持つことができた。日曜日のこととて、日頃こうした行事に参加する機会の少い二部学生会員も多数参会することができ、四百余名の参加会員にとっては洵に思い出多い総会となつたわけである。

本誌の刊行も極めて順調に運んでおり、続編と力作が登場する予定である。経商研究会の研究報告会も近々五〇回を迎えることになるので、記念報告会を開催すべく幹事の先生方の間でプランが練られている由である。やがて、教師にとって書き入れ時の夏休みが来る。秋の実りを活用して待とう。

(T)

印刷所 株式会社 雄渕社印刷部

THE RITUMEIKAN ECONOMIC REVIEW

The Bi-monthly Journal of Ritumeikan University

Vol. IV

June 1955

No. 2

Contents

Treatises :

- | | |
|--|----|
| Kakuryô Minoura : The Thought of Public Finance in
J. S. Mill.(1) | 1 |
| Saitirô Suminoe : A Theoretical Process in the Valuation
of Securities. | 30 |
| Sikitarô Ôyama : The Boss Rule in the Earlier Meiji
seen at Takasima Mining. | 44 |
| Akihide Kakchasi : Marx's Philosophical Thought on
the 1844 manuscripts "die entfremdete
Arbeit."..... | 88 |

Material:

- Kōiti Awakawa : Anonymity in Mass Communication.(1)… 116



The Ritumeikan University Economic Society

KYOTO, JAPAN